

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

winter 2012
Jan.-Mar.

79

特集

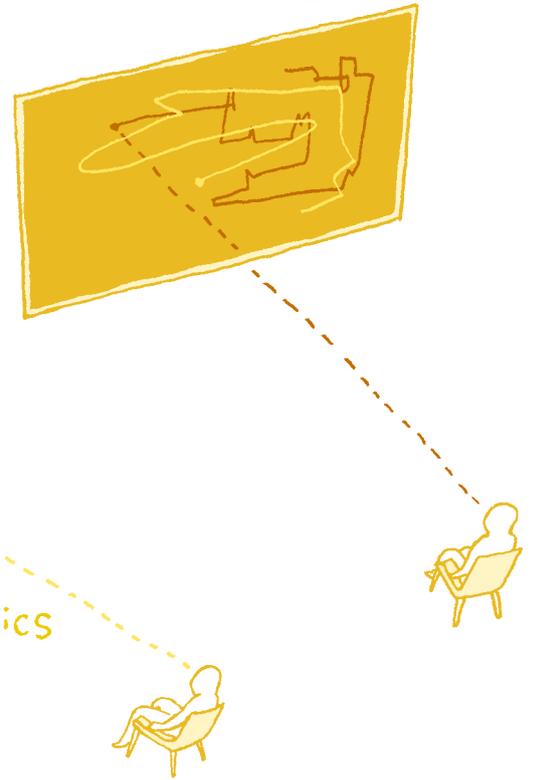
LabACT vol.2 三上晴子

「Eye-Tracking Informatics

～視線のモルフォロジー」

視線が
生み出す
新たな世界へ

Eye-Tracking Informatics



特集

03 「視線」が
生み出す
新たな世界へ

LabACT vol.2 三上晴子
「Eye-Tracking Informatics
～視線のモルフォロジー」

ピックアップイベント

08 新春の幕開けは音楽から。

山口情報芸術センター
山下 残「庭みたいなもの」
気鋭の振付家、山下残による〈ダンス〉の冒険

meet the artist 2011「ライブラリーラジオをつくろう」公開イベント
活動報告会／トーク&音楽ライブ
ラジオについて考えた、この1年間の発表会

中原中也記念館

第9回常設テーマ展示「『在りし日の歌』まで」
詩集の題名が物語る中也の思い

山口市民会館

山口市民会館開館40周年記念演奏会 日本フィル山口公演
日本を代表する音楽家たちの共演

12 any 通信

- ◎アーティストボイス 和合亮一(詩人)
- ◎お先に試写しました 「ブリューゲルの動く絵」
- ◎いらっしやいませ 喫茶ぼなーる
- ◎GOOD GOODS YCAM オリジナルエコバック
- ◎My Favorite 菅沼 聖(山口情報芸術センター 職員)

14 イベントカレンダー 1～3月
INFORMATION

「視線」が

生み出す

特集 LabACT vol.2 三上晴子
「Eye-Tracking Informatics～視線のモルフォロジー」インタビュー

P2～5 参考写真: 三上晴子「Eye-Tracking Informatics～視線のモルフォロジー」(2011)

1984年から「情報社会と身体」をテーマとした大規模なアート作品を発表、
90年代からは観客の動きをリアルタイムで取り込むインタラクティブな作品で高い評価を集め、
常に世界を舞台に活躍しているアーティスト・三上晴子。
山口情報芸術センターではこれまでに2004年、2010年にそれぞれ作品を制作・発表。
これらの作品はその後世界各国を巡回していきました。
そして今回の作品「Eye-Tracking Informatics (アイトラッキング・インフォマティクス)」に対しても、早くも期待が高まっています。
人間の目の動き、視線を取り込んだ作品とは一体どのようなものなのか、
去る11月、YCAMで展示準備中の三上晴子さんへ直撃インタビューを行いました!

新たな世界へ



知覚を テーマにした作品を これまでに 発表してきました。

まずは、三上さんがどのような作品を作ったのかご紹介ください。

1984年に最初の大規模な個展「New Formation of Decline (ニューフォーメーション・デクライン)」を恵比寿のビール工場の研究所廃墟で発表しました。廃テレビなどを数百台使った巨大なインスタレーションで、この時から、当時のテレビやビデオデッキを機能としてではなく、テクノロジーや情報としてのメタファー(暗喩)として作品に取り入れていました。90年代に入ってからにはニューヨーク

に在住し、おもにヨーロッパやアメリカのギャラリーや美術館でインスタレーションと言われる立体作品を発表してきました。91年に最初の観客参加型のインタラクティブ・アート作品「Borderless Under the Skin (ボーダーレス・アンダーザスキン)」を発表しました。「あなたの脈拍を私の作品に貸してください」というサブタイトルで、観客の脈拍の動きが会場全体に散りばめられた作品と連動し動いていく作品です。そして95年から、いわゆるメディアアートと呼ばれる作品を本格的に制作していくことになりました。今回展示する作品の前のバージョン「Molecular Informatics (モレキュラー・インフォマティクス)」もちょうど15年前の96年に発表しています。

このように90年代から視覚や聴覚、触覚、

無意識の 作用が働く 視線に着目。

重力など、人間の新たな知覚を発見するような「知覚のインターフェース」をテーマにした作品を制作してきました。その頃、ヨーロッパでは同時代的にメディアアートのフェスティバルなども起こってきて、そうした場での展示機会があったことで、私の作品がメディアアートと呼ばれるようになったように思います。ただ、

自分では特にメディアアーティストという肩書は使っていません。

今回展示される作品は人間の目の動き=視線を使った作品ですが、どのような関心があって作られたのですか？

この作品は最初、キヤノン・アートラボ*のプロジェクトで制作しました。当時は、まだ視線入力という言葉はあまりメジャーではなかったと思いますが、キヤノンのビデオカメラなどの製品にオプションとして視線入力モードがあり、そのテクノロジーを作品に組み込みました。視線というのは無意識の作用が働いていることが多くて、コントロールが難しいのです。例えば子どもの運動会をビデオ撮影するとき視線入力モードを用いると、撮影のイメージとはまったく別のものが映っているケー

スも多いのではないのでしょうか。上空のガラスが映っていたり、関係のない女の人が映っていたり…。というのも、脳と視神経はかなり距離が近いので、「視線が泳ぐ」という言葉があったり、嘘発見器にも視線の認識に関するシステムがあるように、自分の心情や心理が直接表れてしまう場合が多いのです。今回の作品ではヴァーチャル(仮想)空間に、観客が見た視点がモレキュラー(分子)となって発生し、それらが視線の軌跡となって連なっています。この作品においても当初から意識して視線をコントロールするというよりも、意識と無意識の亀裂のようなものが生じるその瞬間を切り取るような方法を採用しています。

*キヤノン株式会社による、デジタル技術を用いたアート作品の制作を支援したプロジェクト(1991~2001年)。内外の気鋭のメディアアーティストを招聘し、企画展を開催。斬新な作品を数多く発表した。

三上晴子 MIKAMI Seiko
アーティスト。多摩美術大学教授。1984年から情報社会と身体をテーマとした大規模なインスタレーション作品を世界各地で発表。92年から2000年までニューヨークを拠点に主にヨーロッパとアメリカで数多くの作品を発表する。95年からは知覚によるインターフェースを中心としたインタラクティブ作品を発表。視線入力による作品、触覚による三次元認識の作品、重力を第6の知覚とらえた作品「gravicells—重力と抵抗」(市川創太との共作[YCAM, 2004])、情報化社会における二重化された個人の存在をテーマとした「Desire of Codes | 欲望のコード」(YCAM, 2010)などがある。

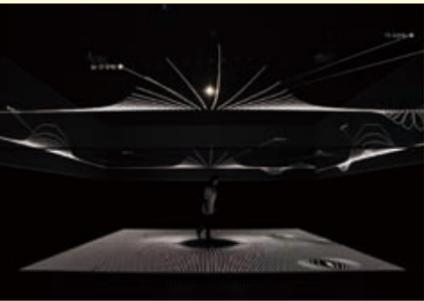


◎「四季」の同人と中也の距離。展示してある作品を読むだけで分かる。ああ、そうだったのかと納得。(40代女性 「雑誌「四季」と中原中也」より)
◎圧倒的な迫力と素晴らしい音色でした！音符が踊っています!! (40代女性 「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
◎中也のことを母親ならではの愛情で話されているところに感銘した。(30代女性 「中也の母・フク」より)
◎素晴らしいかったです!! 耳が幸せ。(10代女性 「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)



【インタラクティブ・アート】 参加者・鑑賞者との相互作用によって成立する形態の芸術作品を指す。観客参加型のアート作品。

YCAMから世界へ、三上晴子作品



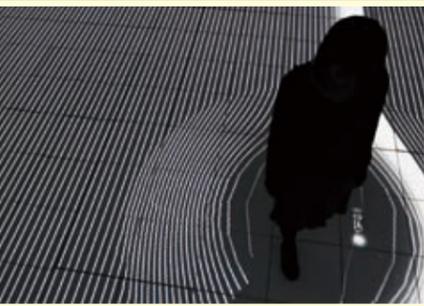
「gravicells—重力と抵抗」

(2004年、改訂バージョン2010年)

体験者は6m×6mの不安定な平面上をただ、立つ、あるいは、移動することでインスタレーションに参加でき、センサーを通じて音・光(LED)・画像の動きが生成され、空間全体が大きく変容していきます。この6m×6mの平面の床には細胞のような40cm×40cmのグリッド225枚が敷かれ、その内部には、単なるON/OFFではなく、0-1000まで位置・重さ・速度の変位を瞬間的に連続して検出できる水圧センサーが埋め込まれています。展示会場の屋根に取り付けたGPS衛星の位置計測器によって、作品空間上空にあるGPSの電波の感度と位置、動く方向もリアルタイムに作品に現れます。初回は2004年にYCAMで制作・展示され、そのあと12カ国を巡回。さらに2010年には新しいバージョンも制作されました。

三上晴子さんのコメント

「2010年の新バージョンは今年の夏に北京の中国国立美術館で展示しました。このバージョンで完成版に近い形になったので、これが最終型になったと思います」



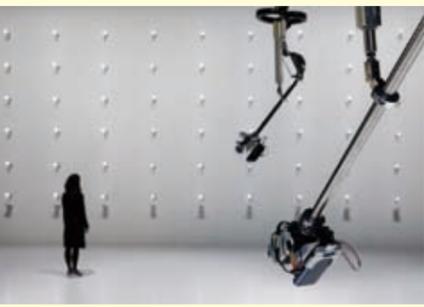
「Desire of Codes | 欲望のコード」

(2010年)

「監視社会と身体」をテーマとした、新たな知覚と社会の関係性を想起させる大規模な新作インスタレーションが3つの構成で展開されました。巨大な壁面を覆い尽くす昆虫の触毛を思わせる大量のストラクチャー[「蠢く壁面」と、会場中央の天井から吊られた6基のサーチアーム[「多視点を持った触覚的サーチアーム」]は、昆虫がうごめくように、観客を追尾し、監視します。また、会場の奥には、昆虫の複眼のような巨大な円形スクリーン[「巡視する複眼スクリーン」]が設置され、ここには壁に取り付けられたビデオカメラの映像や、世界各地の公共空間にある監視カメラの映像などによって構築されるデータベース「欲望のコード」から映像が、複雑に交錯しながら投影されていきます。

三上晴子さんのコメント

「最初にプランをドローイングで描いた時は、壁に取り付けられたカメラは、かなり小型の、親指くらいの大きさの虫のようなもので、空中を飛んで観客を追いかけて留まるというイメージでした。もう5年くらいしたら実現できるかもしれません」



ラボアクト LabACTシリーズ



「The EyeWriter」(2011)を体験する様子

YCAMが誇るメディア表現を専門とした研究開発チーム「YCAM InterLab(インターラボ)」とアーティスト、エンジニアの共同研究を通じ、メディアテクノロジーの社会性と公共性をアートの視点から探るYCAMオリジナルの企画展シリーズ。今年は「視線」に着目した展覧会を2つ開催し、第1弾に、視線の動きを使って文字やグラフィックを描くことができる装置「The EyeWriter」と、その視線入力技術を応用し制作されたエキソニモ、セミラの2組のアーティストによる作品を紹介。第2弾として、今回の三上晴子作品「Eye-Tracking Informatics」を紹介しています。

あなたの視線が 作品を 動かします。

現在、まったく新しい改訂版を準備中というのですが、前のバージョンからどのように変化させる予定ですか？

前回よりも大幅に改訂されています。バージョン1.0はキヤノン・アトラゴ主催で96年に東京代官山ヒルサイドプラザで発表されたのですが、最初は1人用に設計され、1人の観客の視線による意識と無意識のギャップとそこに起こる亀裂のプロセスが投影されたバージョンでした。次のバージョン2.0はオランダ、ロッテルダムで開催されたダッチ・エレクトロニックアート・フェスティバルで発表しました。2人用に設計され、2人の体験者の視線間に起こるテリトリーとコミュニケーションの問題を表現しています。さらに次のフランスで展示したバージョン3.0では、3次元音響のポジション認識を取り入れたものに発展させました。これは相手の視線が近くに位置していれば、その上下左右の方向からだんだんと音が大きくなり、視線の位置が離れるとその方向に小さくなっていきます。

そして、今回のバージョンは視点の位置に視神経のようなものが発生し、画面に描き出されるようになっていきます。プログラムはメディアアーティストでもある平川紀

道さんが担当し、視点を動かして視線となる段階で何本もの視神経が増殖して軌跡を作っていきます。音響はサウンドアーティストのevalaさんが担当し、高度な3次元音響と映画のサウンドで構築される予定です。コンセプト的には96年当時と大枠は変わっていませんが、15年前とはビジュアル、サウンド、コンピュータによる処理速度などハード面が圧倒的に変わっていますね。前回は、体験する人にはスカウターという眼鏡のような装置を装着してもらい、周りの観客はスクリーンに映し出されたその人の視線の動きを見る形になっていましたが、今回はそういった装置もかけず裸眼で体感できるということも大きな違いですし、ヘッドホンを装着しない違った形の音響も体験できますよ。

ただ座って
ぼんやり見るだけでも
いいと思います。
あらゆる人に体験して
もらいたいですね。

どのような人に作品を見て欲しいですか？
あらゆる人に体験してもらいたいですね。メディアアートは体験が難しいというイメージをお持ちの人もいるかもしれませんが、私の作品に限ってはそんなに難しいことはなく、「gravicells(グラヴィセルズ)」(※コラム参照)という作品のように立つ歩くだけでも体験してもらえる作品も制作しています。「EyeWriter(アイライター)」という今回新しく使うシステムには、例えば眼鏡の人は反射があるので体験できないということもありますが、そういった制約や問題をこの制作期間でクリアし、なるべく多くの人に体験してもらいたいと思っています。

最後に、読者へメッセージをお願いします。
集まったみなさんの視線の動きはデータとして残り、他の様々ところで発表されていきます。ぜひ参加してください。1人で来られてもその前に体験された方の視線とコミュニケーションすることもできます。体験者がいない作品は成立しないので、ぜひあなたの視線を貸してください。

だけである意味で無意識になれるし、視線がどこかにそれでもまたそれもおもしろい描画になるように作っているの、どなたでも見に来てほしいですね。小さいお子さんも体験できるように座布団を用意したり、なるべく対応できるように考えて準備している最中です。来てもらってふらっと体験してもらって、作品に巻き込まれ、また誰かが体験している様子を外側から俯瞰して見るだけでも映画的な体験ができますよ。

過去にもYCAMで展示をされた経験をお持ちですが、三上さんにとってYCAMはどんな場所ですか？

初公開のプレミア作品を滞在制作で作れる場所というのは世界でも数が少なく貴重な場所ではないでしょうか。現代美術のなかではアーティスト・イン・レジデンスのような滞在制作型の施設はありますが、メディアアートの場合はほとんどありません。滞在制作の場合には、優秀な技術スタッフがそろっていること、スペースや環境が整っていることなどいくつかの条件が必要で、ただどこで作ったものを持ってきて展示したり巡回させるのとは格段に違うと思います。メディアアートという難しい分野でプレミア作品を作れる施設であることがYCAMの重要な点ではないでしょうか。過去にYCAMで展示した「gravicells」も「Desire of Codes | 欲望のコード」(※コラム参照)もYCAMでの滞在制作があったからこそ、その後も世界各国で展示することができたと思っています。特に「gravicells」は13カ国を巡回したのですが、YCAMはこの業界では世界的に有名になっていると感じています。

最後に、読者へメッセージをお願いします。
集まったみなさんの視線の動きはデータとして残り、他の様々ところで発表されていきます。ぜひ参加してください。1人で来られてもその前に体験された方の視線とコミュニケーションすることもできます。体験者がいない作品は成立しないので、ぜひあなたの視線を貸してください。

LabACT vol.2 三上晴子 「Eye-Tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」

開催中～2012年3月25日(日)
11:00～17:00
会場:山口情報芸術センター スタジオB

[料金] 無料

関連イベント

YCAMギャラリートัวร์
会期中に、YCAMスタッフとともに作品を見て回るギャラリートัวร์を数回開催。これまでと違った作品鑑賞のポイントを発見することができますよ!

[料金] 無料

※開催日時、申込方法等、詳しくはお問い合わせください。

PRESENT

YCAMで発表した
三上晴子による
展覧会ブックレットやポストカード
をプレゼントします。

【申込方法】ご希望のプレゼント番号、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、1月31日(火)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 「gravicells—重力と抵抗」
展覧会ブックレット(1名)
作者である三上晴子と建築家・市川創太が自らテキストを綴り、作品を解説した一冊。2004年、日英両版。



B 「Desire of Codes | 欲望のコード」
展覧会ブックレット(1名)
2010年に「監視社会と身体」をテーマにYCAMで発表した作品のブックレット。



C 「Desire of Codes | 欲望のコード」
ポストカード(3名)
YCAMで展示した作品が7枚のポストカードに。



【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.79 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

観覧聴き の ユ な た !

- ◎レクチャーと映像の両方で土方巽を知ることができ、舞踏のことを少し理解できた気がします。(「特集 土方巽」レクチャーより)
- ◎金管楽器って、本当はここまで質感があって、柔らかくて、輝かしく鳴らせるのだ!と感動しました。(40代男性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
- ◎四季同人の、熱さが感じられて良かった。(20代女性「雑誌「四季」と中原中也」より)
- ◎トランペットのガーボルさんが楽しそうに吹くのを見て、こっちも楽しくなりました。(10代男性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)

新春の幕開けは音楽から



photo:三浦興一

開館40周年を迎えて、
また新しい一歩を踏み出した山口市民会館。
今春は、市内の音楽団体が日頃の練習の成果を
発表する恒例のバンドフェスティバルや
市民コンサートに加え、
日本フィルハーモニー交響楽団による
開館40周年記念演奏会も行われ、
華やかなオーケストラやアンサンブルの音色が
山口市民会館を包み込みます。
2012年の幕開けを彩る音楽コンサートへ
あなたもぜひお出かけください。

提供:ミュージアム川崎シンフォニーホール



© Akira KINOSHITA

PICK UP EVENT! WINTER 2012
ピックアップイベント

山口情報芸術センター (YCAM)

<http://www.ycam.jp/>

山下 残「庭みたいなもの」

2012年1月28日(土) 19:00開演 / 29日(日) 14:00開演
会場:スタジオA

気鋭の振付家、山下残による〈ダンス〉の冒険



山下残「庭みたいなもの」(2011, AI-HALL) photo:阿部綾子

YCAMとAI・HALL(兵庫)、STスポット(横浜)の3館が共同プロデュースした、振付家/ダンサーの山下残の最新作が、いよいよYCAMで上演されます。活動当初から多様な創作スタイルと制作プロセスで注目を集め、近年ではアジアのアーティストともコラボレーションしている山下残。観客がページをめくりながら本と舞台を交互に見る作品「ここに書いてある」(2002年)やダンサーの動きを進行役が声にする「透明人間」(2003年)など、言葉と身体に関連性にこだ

わるパフォーマンス作品を発表してきた山下が、最新作でも冒険的なパフォーマンスに挑戦します。「言葉と身体」から生まれる、ユーモラスで新しいコミュニケーションのかたちをYCAMでご覧ください。

わたしはココに注目する!

YCAMオリジナルワークショップ「コトバ身体」

私たちの日常にあるコトバと身体の関係に注目したワークショップを開催。

2012年1月21日(土)～22日(日) 13:00～17:00

会場:スタジオA

[料金]1,500円

[講師]山下 残、YCAM教育普及スタッフ

[対象]高校生以上(経験不問)

[定員]20名

※申込方法等詳しくはお問い合わせください。

チケット情報 発売中

料金 全席自由 前売 一般 2,500円 any会員・特別割引 2,000円 25歳以下 1,800円
当日 3,000円

meet the artist 2011 「ライブラリーラジオをつくろう」公開イベント

活動報告会

2012年2月4日(土) 14:00～16:00 会場:ホワイト

トーク&音楽ライブ

2012年3月11日(日) 時間未定 会場:スタジオA

ラジオについて考えた、この1年間の発表会



アーティストにインタビューする市民コラボレーターの様子

アーティストと市民が一つのメディアに着目し、創造的な活動を行う長期ワークショップ「meet the artist」。2011年度は「ラジオ」をテーマに、メディア論研究者・桂英史を講師に迎え、約15名の市民コラボレーターがYCAM内に手作りのラジオ局を開設、運営しています。ワークショップを重ね、楽しみながら作り上げたコンテンツは山口市立図書館で好評放送中。ゲストを招いた公開収録生放送も行われまし

た。そんな市民コラボレーターの1年にわたる活動を2月4日に発表します。さらに、東日本大震災から1年となる3月11日にはインターネット中継を交えたトーク&音楽イベントを開催。大震災後の日本において再注目された「ラジオ」は、メディアとして何ができるのか? この2つの公開イベントを通じて、みなさんと一緒に考えていきます。

わたしはココに注目する!

素敵な音楽はもちろん、YCAMに来館したアーティストや市民の皆さんへのインタビュー、本の朗読、ローカル情報といった市民コラボレーター渾身のラジオ放送はYCAMでしか聴けません。今すぐFMラジオとイヤホン片手に山口市立図書館へ! 詳細はこちら。<http://libraryradio.jp>

料金 | 無料

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

イベントレポート

佐東利穂子 ダンスワークショップ



身体の使い方の基礎を学ぶワークショップが去る11月に開催され、10才から18才までの男女11名が参加しました。世界的なダンサー・佐東利穂子さんから講師とあって、みなさん少し緊張気味でしたが、まず裸足になって、歩く・走る・ダッシュを合図にあわせて休みなく繰り返すと、身体もほぐれて生き生きとした表情に。力を抜いてジャンプする動きでは、重力を意識して身体が落下する感覚を体験しました。そんな熱のこもった1時間半のワークショップは呼吸を整えて終了。「足が痛かったけど、楽しかった」「こんなに身体の力を抜いたのは初めて」といった声が聞かれ、普段は感じる事のない自分の身体を発見する、今までにない機会になったようです。

mini PICK UP!

映画を2回観る会vol.3

一映画について言葉で語ること

2012年3月20日(火・祝)

13:30開演

会場:山口情報芸術センター

スタジオC



「映画を2回観る会vol.2」の様子

映画を観る、語る、もう一度観るというワークショップスタイルの映画鑑賞会「映画を2回観る会」。シリーズの集大成となる第3回は、映画について言葉で語ることをテーマに、編集者/アートジャーナリストの小崎哲哉を講師に迎えて開催します。初めて作品を観た時の感想を言葉にして共有し、解説を踏まえてもう一度同じ映画を観ることで、作品の魅力をより深く楽しむための鑑賞法と批評的な視点を発見します。

[申込開始]1月28日(土)～

[料金]一般 300円

any会員・特別割引 200円

※申込方法等詳細はお問い合わせください。

any通信

2013年の
Anniversary Yearに
向けて、
第一歩がスタートです。



坂本龍一さんをお迎えします。
2013年11月に10周年を迎えるYCAM。その記念事業のアーティストックディレクターに、世界的に著名な音楽家・坂本龍一さんが就任されます。さっそく去る12月には、坂本さんを招いてのトークとコンサートも行われ、早くも10周年に向けての気運が盛り上がっています。本番の2013年には、どのような企画が飛び出すのか、これからのYCAMの情報にご注目を!



**ダンス・身体について
検証するシンポジウム**
振付家、ウィリアム・フォーサイスの振付の方法論、身体への思想について、メディアテクノロジーを媒介に、どのような新しい可能性を見出すことができるのかを検証するシンポジウムを開催。身体表現の検証と応用を試みる研究開発の最前線にふれるこの機会をお聞き逃さない!

シンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクステンジ」
2012年3月3日(土) 時間未定
会場:山口情報芸術センター スタジオA
[料金] 無料(要申込)
※申込方法等、詳しくはお問い合わせください。

商店街に響く詩のことはば
去る11月、山口市米屋町商店街みずほ銀行前広場で、「詩の朗読会〜心も声も響かせよ



う」が開催されました。市内の小学校や中学校から集まった子どもたち、一般の方や県外の演劇ユニット、さらには中原中也記念館の名誉館長、館長の2人も参加。中也の詩だけではなく、和合亮一さんや金子みすゞの詩、なかには自作の詩を朗読する人も。楽器の演奏や歌を交えたパフォーマンスもあり、みなさん思い思いに詩を表現していました。最後に、出演者全員で、お客さんも巻き込んで中也の詩「村の時計」を大合唱。商店街に小学生から大人までの様々な声で、詩のことはばが響き渡る1時間30分となりました。

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

和合亮一 (詩人)

第4回中原中也賞の受賞者であり、その後もイベントやラジオ、執筆など幅広く活躍をする和合亮一さん。Twitterによる震災後の福島の現状や被災者の想いを短い詩にした連作や、また、この夏にはプロジェクトFUKUSHIMA!の発起人の1人としてイベントを成功させるなど、注目を集めています。そんな和合さんにとって山口はどんな場所なのか、お聞きしました。

山口は詩の聖地です。



山口のみなさん。お元気でいらっしゃいますか。この欄にお声を掛けてくださり、とても嬉しいです。私にとって山口は詩の聖地です。中也賞をいただいてから毎年のようにお伺いして、その度に中原中也さんと会うことが出来たような気持ちになって、福島に戻ったのでし

た。だから山口の風景や風土、街の人々を、親しい先生のように思っております。今は久しくお会い出来ず、失礼しております。いつか必ず近況報告をし、お伺いします! 受賞の知らせをいただく少し前、夢を見ました。川べりに、とても明るい光がさして、涼しい風が吹いていました。青空に雲。私はなぜかこれは遠くにある美しい光景だということを知っていました。授賞式のお招きをいただき、湯田へと向かう道すがら、山口の川岸だったと分かりました。それから風土と魂について考えるようになりました。中也が最後に帰ったかった、山口の風と土と光…。詩人の故郷へ、またお伺いしたいです。



和合亮一著 「AFTER」 (1998年、思潮社刊)

和合亮一第一詩集。25歳から書き始めたという詩「空襲」「ハンディ」「失墜」など15篇を取録。全国から集まった216点の応募詩集の中から第4回中原中也賞を受賞。選考委員からは、「現代に生きる青年の生理的な衝動をまざまざと感じさせる」「試行錯誤しながら、もがき、格闘し、反抒情的な新しいポエジーを造型しようとしている」と、高い評価を受ける。

和合亮一 WAGO Ryoichi

1968年福島生まれ。福島在住。詩人。国語教師。1998年、「AFTER」(思潮社)で第4回中原中也賞を受賞。現代詩の旗手として、イベントやラジオなどで幅広く活躍。震災以降、福島から、Twitterにて「詩の囁」と題した連作を発表し続け、大きな反響を呼んでいる。2011年5月、ギタリストで世界的に活動する音楽プロデューサーの太友良英、元スターリンの遠藤ミチロウとともにプロジェクトFUKUSHIMA!を立ち上げ、8月15日、世界に発信する世界同時多発イベントを開催。坂本龍一のピアノ、太友良英のギターと共演「詩の囁」を朗読。多くの来場者を集め、インターネットでは世界25万人の視聴を記録した。

お先に 試写し ました



「ブルーゲルの動く絵」

(2011年/ポーランド・スウェーデン/91分/カラー/デジタル上映)
[監督]レフ・マイエフスキ [出演]ルトガー・ハウアー、シャーロット・ランプリング、マイケル・ヨーク

16世紀、ネーデルラントの偉大な画家ピーテル・ブルーゲルの「十字架を担うキリスト」。本作品だけでなく、一般的によく知られるブルーゲルの絵は、その時代の庶民の生活が描かれ、1枚の絵の中には大勢の人々の姿が描かれている。見応えがあるので、様々な想像を膨らませ、その時代背景や歴史、風俗・世俗、政治、宗教など他分野に想いを馳せて、観賞することもあるだろう。そこには何かがある。そして、それらは絵画という静止された世界一。

しかし、それが動くのだ(映像でありながら、絵画の奥行きのようなものを感じとれるこの不思議な感覚は、何とも説明し難いので、ぜひご覧になって体感していただきたいところ)。この風景の中(絵画の中)で起きているいくつかのエピソードが出来事として動いていく。行

商をする人々、風車小屋で労働する人々、その一方で聖母マリアの姿も見える。そして、キリストの受難の物語が描かれていく…。見ていくと、当然、動かない絵画とは違った見解や解釈も生まれてくるからおもしろい。そして、限りなく昔の遠い国の風景が今のこの世界のどこかで見かける日常にもオーバーラップして見えたりもする。ぜひスタジオCでご体感!

松富淑香 (YCAM シネマ担当)

2012年1月27日(金) 13:30~/19:00~
28日(土) 13:00~/15:00~
17:00~
29日(日) 16:30~
会場:山口情報芸術センター スタジオC
[料金] 一般 1,300円
any会員・特別割引・25歳以下 800円



「ブルーゲルの動く絵」作品紹介

ブルーゲルの傑作として知られる絵画「十字架を担うキリスト」の中に入り込み、その世界を旅するような新しい映像体験。描かれている様々な人物の物語がブルーゲルによって導かれ、やがてこの名画に秘められた意味が解き明かされていく。ニューヨーク近代美術館(MoMA)で作品が展示されるなど、アート界でも活躍するポーランドの鬼才レフ・マイエフスキが描く独自の絵画空間。

MY FAVORITE

※上の文字は視線解析技術によってマウスを使用せず、目で書いたものです。

世界発信を目的とするYCAMにとって、先進的でオリジナリティー溢れるアイデアを練るのも仕事のひとつ! 悩んだ時に立ち寄るのが、あらゆる知識が詰まった書庫です。残念ながら一般の方は入れませんが、おもしろいアイデアをYCAMのイベントというかたちで還元していきたいと思います。 菅沼 聖 (山口情報芸術センター 職員)



菅沼 聖

いらしゃいませ



クリームパンケーキ
550円
※写真のブレンドコーヒーは400円

懐かしさ薫る喫茶店のパンケーキ

鉄板で焼き上げた名物パンケーキのアイスクリーム付を注文すると、甘くてこんがりとしたいい香りとともに運ばれてきたお皿には、星型のかわいいバター製の大きなパンケーキが2枚。パナラとストロベリーの2色のアイスクリームに、旬のフルーツも添えられボリューム満点! 口に含んだときのふわっとした触感とそのおいしさに思わず笑顔が。溶けてきたアイスクリームと温かいパンケーキを絡めて食べればこれまた絶品! 鍾乳洞をイメージしたという不思議な天井、昭和の薫り漂う店内では、今日も常連客や観光客が日替わり定食やデザートを食べに、また懐かしくて居心地の良いこの空間を楽しみにやってきました。

喫茶ぼな一

山口市湯田温泉1-11-35 TEL.083-922-0800
営業時間:10:00~20:00 (水曜日のみ15:00まで)
※any会員はソフトドリンク全品50円引き
(セットメニューの場合は不可)

GOOD GOODS



YCAMオリジナルエコバック

夏限定の幻のグッズが販売決定!

生成りの生地、YCAMのロゴがアクセントのエコバックは、この夏のキャンペーン期間中に実施したYCAMスタンブラリーの記念品として作られたグッズです。対象イベントに参加し、スタンプを4つ集めた人だけがもらえる非売品で、キャンペーン終了後は幻のグッズとなっていましたが、好評につき、この度販売が決定! スタンプを集められなくてあきらめていたあなたも、いまなら入手できますよ。小さく折りたたんで携帯すれば、お買い物のお供に重宝するし、図書館で借りた本を入れるサブバックにもなって大活躍! なくなり次第販売終了、欲しい方はお早めにご購入を!

価格: 200円(税込)

「み聴観
びんいた
ユなた!
の!

◎オーケストラも聴きたいなあ〜と思いました。(10代女性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
◎読みものが多いのかと覚悟してきましたが、各所でデザイン等の工夫が見られ、じっくり鑑賞しました。(30代女性「雑誌「四季」と中原中也」より)
◎美しい音色にうっとり。人間の息から吐き出される音とは思えません。(20代女性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
◎舞踊の神髄をすべて大変楽しめる内容でした。(「特集 土方興」レクチャーより)

「み聴観
びんいた
ユなた!
の!

◎音のバランス、繊細さが際立っていたと思います。(60代女性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
◎ポピュラーな曲がかなりありましたので、とても楽しく聴くことができました。(70代男性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)
◎堀辰雄の校正や立原道造の原稿などからその人となりが浮かび上がり、親密な気持ちを感じる事ができました。(30代男性「雑誌「四季」と中原中也」より)
◎世界最高のプレーヤーの音がこんなにも素晴らしいとは! (60代男性「ベルリンフィル12人の金管奏者たち」より)

Desire of Codes



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

gravicells

